



左から 加藤風磨選手、高橋尚弥選手、中本健太郎選手、古賀淳紫選手、北島寿典選手、トゥル・メルガ選手、野村峻哉選手

駅伝の季節が到来し、当社陸上部は駅伝日本一を決めるニューイヤー駅伝(全日本実業団対抗駅伝競技大会)に向けて調整を開始しました。

若手選手を中心に出場した甲佐10マイルロードレースでは、序盤からハイペースでレースが展開しました。数多くの有力選手が揃う中、古賀淳紫選手が物怖じせず積極的なレース運びを見せ、見事7位入賞。安川電機陸上部新記録を更新しました。

元旦に行われたニューイヤー駅伝では、約2年ぶりにレースに復帰した北島寿典選手を1区に起用。スローペースでレースが進み、我慢を強いられる展開となりましたが、先頭との差を最小限に抑える走りでもついに2区のトゥル・メルガ選手へ襷をつないでくれました。トゥル選手は、本来の走りを見せられず精彩を欠いたものの7つ順位を上げ、22位で3区の新人、野村峻哉選手に襷を中継。野村選手は順位を1つ落としたもののなんとか粘りきり、4区

高橋尚弥選手がエースの意地で4人を抜いて19位に浮上しました。5区を走った中本健太郎選手は5人を抜く快走を見せ、6区新人の加藤風磨選手は堅実な走りでもついに前を追い、7区アンカー古賀淳紫選手へと襷を渡しました。古賀選手に襷が渡った時点で、入賞ライン(8位)とは約2分離れていましたが、持ち前の積極性を序盤から発揮し、8位まであと20秒というところまで縮める凄まじい走りを見せてくれました。この走りでもついに古賀選手は当社陸上部初のニューイヤー駅伝での区間賞を獲得。総合順位は11位となり、目標とする8位入賞には届きませんでしたが、北島選手の復活や、古賀選手の区間賞など明るい話題も多く、今後につながるレース結果でした。

今後は個人レースへと移行します。引き続き応援よろしくお願いたします。



古賀淳紫選手が当社陸上部初のニューイヤー駅伝区間賞獲得!

選手コメント

ニューイヤー駅伝に向けて力を試すレースとして臨んだ甲佐10マイルでは、7位入賞と安川新記録で走ることができ、大きな自信になりました。ニューイヤー駅伝では最終7区に起用され、少し驚きもありましたが、積極的に前を追い、チーム初の区間賞を獲得できました。10マイルの自信をレースに生かすことができよかったです。この勢いそのまま、次の目標に向けて練習していきます!

◆ 18年10月～19年1月の主な戦績

日程	大会名	成績
10月13日	第19回中部実業団陸上競技選手権大会	100m:大瀬戸一馬 2位
10月20日	第4回鞘ヶ谷記録会	一般高校男子5000m 決勝14組 トゥル・メルガ 1位(自己新記録)、アッバイナ・デグ 3位、高橋尚弥 4位、古賀淳紫 10位、野村峻哉 12位、加藤風磨 17位、黒木文太 18位、井上拳太郎 23位
11月 3日	第55回九州実業団毎日駅伝競争大会	チーム5位 ※()内は区間順位 1区:古賀淳紫(6位)、2区:アッバイナ デグ(5位)、3区:野村峻哉(7位)、 4区:黒木文太(5位)、5区:高橋尚弥(7位)、6区:加藤風磨(2位)、 7区:中本健太郎(6位)
11月17日	第1回福岡県長距離記録会	5000m:野村峻哉 13位
11月24日	2018八王子ロングディスタンス	10000m:トゥル・メルガ 1位(自己新記録)、アッバイナ・デグ 14位
12月 2日	第43回熊本甲佐10マイル公認ロードレース大会	古賀淳紫 7位(安川新記録)、高橋尚弥 20位、野村峻哉 28位、加藤風磨 61位、 五郎丸真翔 123位
1月 1日	第63回全日本実業団対抗駅伝競走大会 (ニューイヤー駅伝2019)	チーム11位 ※()内は区間順位 1区:北島寿典(29位)、2区:トゥル・メルガ(22位)、3区:野村峻哉(23位)、 4区:高橋尚弥(11位)、5区:中本健太郎(10位)、6区:加藤風磨(26位)、 7区:古賀淳紫(1位・区間賞)